

今冬の雪はどうなる？ウェザーニュース、降雪傾向(12～3月)を発表
ラニーニャ現象や低気圧の影響で降雪量は北～西日本の日本海側で多くなる可能性大
～降雪のピークは広範囲で1月後半、南岸低気圧の影響で平野部も積雪のおそれあり～

株式会社ウェザーニュース(本社:千葉市美浜区、代表取締役社長:草開千仁)は、今冬の「降雪傾向」を発表しました。今冬(12～3月)の降雪量は、北日本から西日本の日本海側で“**平年並が多い**”予想です。一方、北日本から西日本の太平洋側では“**平年並**”となる見通しです。ラニーニャ現象の影響で偏西風が日本付近で南に蛇行し、西日本を中心に寒気が流れ込みやすい時期があります。北日本も低気圧の影響を受けやすい時期がある見込みです。雪のピークは広範囲で1月後半の予想で、日本海側の各地で大雪となり、濃尾平野や京阪神、瀬戸内でも積雪のおそれがあります。1月中旬からは南岸低気圧の影響で関東甲信の平野部でも積雪のおそれがあります。

昨冬は12月下旬以降、断続的に強い寒気が流れ込んだ影響で記録的な大雪となったところがありました。また北日本は低気圧の影響を受けやすい時期もあったため、12～2月の合計降雪量は北日本と西日本の日本海側で平年より多く、東日本の日本海側でも平年並の範囲ながら多めとなりました。今年は3シーズン連続で冬にラニーニャ現象が発生した状態となり、昨冬と同様に降雪量が多くなる可能性があります。最新の見解お天気アプリ「ウェザーニュース」またはウェザーニュースウェブサイト「長期予報」からご確認ください。

<ポイント>

- (1) **降雪量:**
北日本から西日本の日本海側で“**平年並が多い**”、太平洋側で“**平年並**”の予想
- (2) **ピーク:**
広範囲で1月後半。1月中旬からは南岸低気圧の影響で関東甲信の平野部でも積雪のおそれあり。
- (3) **降雪量を左右する要因:**
3シーズン連続で冬にラニーニャ現象が発生した状態で、西日本を中心に寒気が流れ込みやすい。

本プレスリリースの素材ダウンロード

ウェブ版プレスリリース「降雪傾向」
<https://jp.weathernews.com/news/41915/>

最新の予報はこちらから

ウェザーニュースウェブサイト「長期予報」
<https://weathernews.jp/s/opinion/>

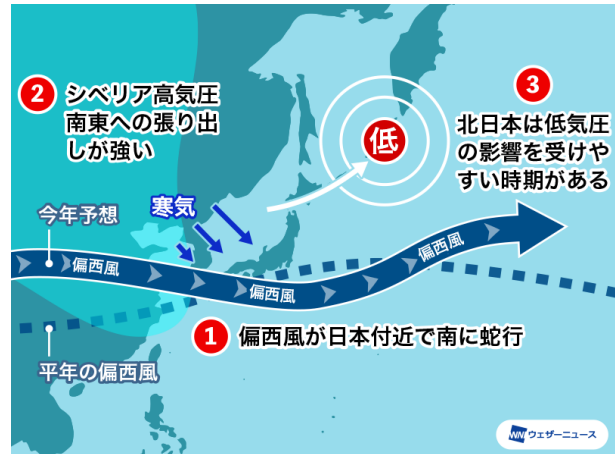
◆ **今冬(12～3月)の降雪傾向**

<降雪量とその要因について>

今冬の降雪量は、北海道から東北の日本海側・北陸・近畿北部・山陰で“**平年並が多い**”、その他のエリアは“**平年並**”の予想です。予想のポイントとなるのは、ラニーニャ現象とそれに伴う偏西風の蛇行です。



今冬は、ラニーニャ現象の影響で偏西風が日本付近で南に蛇行するため、シベリアの高気圧の南東への張り出しが強くなり、西日本を中心に寒気の流れ込みやすい時期がある見込みです。このため、東日本から西日本の日本海側を中心に降雪量が平年並か多くなる予想です。また、北日本の日本海側は冬型の気圧配置が強まる時期と弱まる時期がある一方、低気圧の影響でまとまった雪が降る日があり、降雪量は平年並か多くなる予想です。東日本の太平洋側は1月中旬から南岸低気圧の影響を受ける日があるとみられ、平野部でも積雪するおそれがあります。また今冬は西回りで強い寒気が流れ込む時期があり、西日本の太平洋側でも平野部で積雪する日がある見込みです。東日本から西日本の太平洋側の降雪量は平年並の予想です。



昨冬は12月下旬以降、断続的に強い寒気が流れ込んだ影響で記録的な大雪となったところがありました。また北日本は低気圧の影響を受けやすい時期があり、12～2月の合計降雪量は北日本と西日本の日本海側で平年より多く、東日本の日本海側でも平年並の範囲ながら多めとなりました。今冬は3シーズン連続で冬にラニーニャ現象が発生した状態となり、昨冬と同様に12～2月の合計降雪量は北日本から西日本の日本海側で降雪量が多くなる可能性があります。また、昨シーズンの3月はシベリア高気圧の勢力が弱まり、日本付近への寒気の南下が弱まったため、北日本から西日本の日本海側の降雪量は平年より少なくなりました。今シーズンの3月も日本付近への寒気の南下が弱まり、北日本から西日本の日本海側の降雪量は平年並か少なくなる見込みです。

<雪のピークの時期について>

雪のピークは広範囲で1月後半の予想です。この時期は1年のうちでもっとも寒い時期で、強い寒気が南下した場合は、山陰・北陸を中心に大雪となり、濃尾平野や京阪神、瀬戸内でも積雪のおそれがあります。また、1月中旬からは南岸低気圧の影響で関東甲信の平野部でも積雪のおそれがあります。交通機関に大きな影響が出る可能性もあるため、随時最新の情報をご確認ください。

◆ エリアごとの降雪傾向

エリア	本格化時期	ピーク時期	降雪量	降雪傾向
北日本	12月上旬	1月後半	<p><日本海側> 平年並か多い</p> <p><太平洋側・オホーツク海側> 平年並</p>	<p>北海道では11月3日に稚内、4日に旭川・網走・函館、10日に帯広、14日に釧路、16日に札幌・室蘭でそれぞれ初雪が観測されました。東北では11月16日に盛岡で初雪が観測され、全地点で平年より遅い初雪となりました。</p> <p><日本海側> 今冬の気温は平年並か高い予想です。冬型の気圧配置が強まる時期と弱まる時期があり、また、発達した低気圧の通過でまとまった雪の降る日や暴風雪となる日もある見込みです。</p> <p><太平洋側・オホーツク海側> 今冬の気温は平年並か高い予想です。1月や2月に低気圧の影響を受けやすい時期がある予想です。また、発達した低気圧の通過でまとまった雪の降る日や暴風雪になる日もある見込みです。</p>
東日本	12月下旬	1月後半	<p><日本海側> 平年並か多い</p> <p><太平洋側> 平年並</p>	<p><日本海側> 今冬の気温は平年並かやや低いですが、変動が大きい予想です。12月下旬から冬型の気圧配置が現れやすくなり、積雪が徐々に増えていく予想です。1月後半は一時的に強い寒気が流れ込み、一気に積雪が増加する日がありそうです。3月になると、次第に寒気の流れ込みが弱まり、雪どけが進む見込みですが、一時寒の戻りがありそうです。</p> <p><太平洋側> 今冬の気温は、12～2月にかけて平年並かやや低く、3月は平年並か高い見込みですが、変動が大きい予想です。1月中旬～2月は、南岸低気圧の影響を受ける日があり、関東の平野部でも雪の降る日がありそうです。東京都心でも積雪リスクが高まるため、注意が必要です。</p>

				南岸低気圧は、そのコースと発達具合が雨か雪かを大きく左右するため、雪予報が発表された際は、最新の情報をこまめにご確認ください。3月になると、次第に寒気の流れ込みが弱まり、山間部の雪どけが進む見込みですが、一時寒の戻りがありそうです。
西日本	12月下旬	1月後半	<日本海側> 平年並か多い <太平洋側> 平年並	<日本海側> 今冬の気温は平年並か低い予想です。12月下旬から冬型の気圧配置が現れやすくなり、山陰を中心に積雪する日が増えてくる予想です。1月後半は一時的に強い寒気の流れ込み、一気に積雪が増加する日がありそうです。3月になると、次第に寒気の流れ込みが弱まり、春めいてくる見込みですが、一時寒の戻りがありそうです。 <太平洋側> 今冬の気温は平年並か低い予想です。12月中旬に初雪となる所が多いとみています。1月後半は一時的に強い寒気の流れ込み、平野部でも積雪のリスクがあります。3月になると、次第に寒気の流れ込みが弱まり、春めいてくる見込みですが、一時寒の戻りがありそうです。

◇ 今冬の降雪傾向について

当社では、日々、長期気象予測サービスの実用化に向けて取り組みをおこなっていますが、現在の気象予測の技術水準では、予測精度の誤差が大きくなる場合があります。今回の降雪傾向発表にあたり、複数の気象機関や長期予報の有識者からの見通しを元に、総合的に見解を出しています。本リリースにおける情報につきましては、発表日(11月25日)における最新の見解になります。

※ 平年：気温や降雪量の平年は1991年～2020年の過去30年間の平均